

令和 7 年 8 月 8 日 開 会

令和 7 年度第 5 回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和7年度 第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和7年8月8日(金)	教 育 長 明 石 浩 久	教育総務課長 小 池 康 之
午前10時 ↓	教 育 委 員 吉 富 和 夫	学校教育課長 川 崎 史 明
午前11時30分	教 育 委 員 葛 迫 幸 平	社会教育課課長補佐 山 下 明 文
第2研修室	教 育 委 員 田之上 厚美	
	教 育 委 員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

- 開 会
定刻、定足数に達しており、令和7年度第5回教育委員会定例会を開会した。
- 前回会議録の承認について
令和7年度第4回教育委員会定例会の会議録について、一部修正のうえ、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。
- 議 事
議案第9号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について(非公開)
- その他
- 動議の討論等
- 委員並びに教育長及び課長報告
- 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
議案第9号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び状況について点検及び評価を行った「垂水市教育委員会の事務の点検及び評価並びに外部評価委員会の評価結果報告書」について、垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第11条第15号の規定に基づき、会議の議決を求めるもの	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

2 前回会議録の承認について	事前に配布してあった会議録について、一部修正の要望あり。
葛迫委員	9ページの4行目ですが、エスポワールはフランス語で「規模」ではなく「希望」です。
教育総務課長	修正いたします。
3 議 事	議案第9号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について
教育総務課長	教育委員会委員活動状況に対する外部評価委員の点検・評価について ＜資料に沿って説明＞ (質疑等なし)
教育総務課長	教育総務課の事務事業に対する外部評価委員の点検・評価について、資料に沿って説明
福里委員	栄養士の先生は変わっていないと思いますが、給食センターのInstagramを見ると、新たにチャレンジした見たことがないようなメニューや色彩があるような

	印象です。委託事業者が変わったからでしょうか。
教育総務課長	調理・配送業務の委託先は変わりましたが、献立、レシピは、これまでどおり栄養教諭が立てており、材料の購入先も変わっておりません。材料費等の高騰に対しても予算を増額計上し、質や量を落としていないところです。
福里委員	学校での触れ合い給食がなくなってしまったので、アピールも含めて実施していただきたい。
教育総務課長	コロナ禍で中断していたところですが、小規模校では徐々に再開してきております。学校と相談しながら検討させてください。
教育長	感染症対策もありますので、工夫しながら実施することになります。 垂水高校の振興対策につきましては、評価をいただいているのですが、新聞報道にありましたように、普通科が7人、生活デザイン科が11人で、昨年度よりも希望者が減っている状況です。
学校教育課長	学校教育課の事務事業に対する外部評価委員の点検・評価について ＜資料に沿って説明＞
教育長	サテライト型の教育支援センターの開設は令和7年度の取組ですので、校内教育支援センターに修正させてください。
福里委員	英語検定の補助ですが、9月から10月に2回目がありますが、今年度の補助は、今回で終了と書いてあったのですが、3回目は補助の対象にならないということでしょうか。
学校教育課長	対象になるかと思われませんが、確認いたします。
社会教育課長	社会教育課の事務事業に対する外部評価委員の点検・評価について ＜資料に沿って説明＞
吉富委員	本当に多くの行事、それから文化活動、教育活動等、多くの事業を実施されていると思います。市民の方々も、老若男女問わず、幼児から年配の方まで、文化会館の公演等で催し物があつたときには、多くの方々が参加されております。 また、垂水市民の方々の文化、教育、歴史に対する意識の高さを感じております。それに携わっている各リーダーや講師の方々などの活躍がクローズアップされていないように思われます。中心になっている方々を、紹介していただければと思います。遠慮されるのですが、クローズアップしていただければ、また、より活動が進むのかなと思いましたので、お願いいたします。 (承認)

4 その他

学校教育課長

毎年4月に行われる全国学力学習状況調査について、今年度の結果が7月に届きましたので報告をさせていただきます。今年度は、国語と算数、数学に加えて、3年に1度の理科がある年でした。中学校の理科については、紙ベースで回答するのではなくてタブレットを使ってCBT型のテストということになりました。

昨年度までの本市の傾向といたしましては、昨年度、一昨年度ですが、鹿児島県の学力調査においては、かなり成果が出ていたのですが、全国学力学習状況調査のように、思考がもう一段階複雑になってくるものについては、十分対応できていなかったというのが、これまでの傾向でした。

それでは、今年度の結果です。資料にグラフがございますが、青のグラフが昨年度の全国比でございます。全国を100としたときの対比です。

オレンジのグラフが今年の結果でございます。小学校ですが、国語と算数がほぼ全国と同様の結果、同等の結果が出ております。理科については、全国を上回る結果で、3教科総合してみますと、全国よりかもちょっと上ぐらいかなという結果でした。

次に、中学校の結果ですが、これまで全国学力学習状況調査などでは、課題が見られたのですが、大きく伸びたかなというふうに思っています。国語については、全国平均を上回りました。数学につきましては、まだ全国平均には少し届かなかったのですが、県の平均は超えております。昨年と比べても大きく伸びが見られました。理科については、初めてのCBTということで、非常に心配していましたが、全国以上の結果ということになりました。

全体で通してみると、子どもたち、力がついてきているのではないかなと考えております。全国学力学習状況調査については、この学力の調査と、もう一つ、児童生徒質問紙という質問項目がたくさんあるものがありますが、その回答結果に、私たちはすごく着目をしております。結果をみると、非常に子どもたちの学校への満足度や、先生との関係、道徳性、それに加えて、自分が将来の夢や目標を持っていると等、生きるための基礎的なものは、全国と比較してもいい割合でした。もちろん中には、課題のあるお子さんもいらっしゃると思いますが、全体として、全国との平均を見てみると、かなり良好な意識調査も出ております。

一方、課題といたしまして、小学校、中学校ともに、調査問題を解く時間がちょっと不足しているという子どもたちが全国よりも多かったです。それと、小学校は算数、中学校は数学への苦手意識はまだあるというところでもございました。

このようなところが課題として出ていますので、これを改善すべく、例えば演習問題を充実させて子どもたちに思考のスピード化を図るなど、基礎的な計算問題などスムーズに解けるようにするなど、今後、工夫していく必要があるかなというふうに考えております。

下段に今年度の対策を載せておりますが、この2年間、3本の矢プランを行ってきました。これが効果のある取組なのかなと考えておりますので、内容をさらにブラッシュアップしていく形で、継続していきたいと考えております。3本の矢プランは、1本目が授業改善で学習者主体の授業にしてい、その中でタブレットを使っていくというのが1つ目の矢です。2本目が良問の計画的な活用ということで、夏休みのこの時期を使って、担当がいろんな問題を15分程度で解けるようなセットをたくさん作って学校に送ります。学校の方では、これの活用計画を立て見届けを行っていただくということになります。3本目が、その管理職による確かな見届けというところが、3本目が一番の大きなポイントかなと思います。

	また、研究開発学校を今年度から引き受けておりますので、やはり情報活用能力を高めて、子どもたちがその中で思考・表現ができるような授業づくりというのを研究して参りたいと思います。学校訪問や校内研修もございまして、引き続き、積極的に参加をして、子どもたちの力がつくような授業はどうあればいいのかというのを学校職員と教育委員会で協議し、適切な指導を行ってまいりたいと考えております。
教育長	学校、子どもたちの頑張りが現れてよい結果が出たのでしょう。市の様々な支援、GIGAスクール等、学力向上に対して予算をつけていただいて、取組を進めていただいていることが、結果として表れているのかなというふうに思っているところです。
吉富委員	GIGAスクールが始まり、2年後、3年後、延びますよというのを予想していたところで、その結果を見事に反映していただいていると思います。本当に各学校が努力されたと思います。課題につきまして、時間が不足というのがありました。私も現場にいる時に5年生の学力テストを行いました。スピード感がないということで、取組みとして、文章を写す速さ、速記録ですね、これを、この文章を何分で写しますということを徹底して、作文用紙で訓練しました。国語の教科書を何分でここだけ写しますよ。何秒、何秒というと、子どもたちは楽しく取り組みます。速読のトレーニングをすることで、解消されると思いますので、ご提案させていただければと思います。
教育長	ありがとうございます。子どもたちの学習のスピードであつたりとか、算数数学への苦手意識であつたりとか、まだ課題もありますので、兜の緒を締め、引き続き、学力向上に向けての取組を進めていきたいと思います。 教育総務課長から、学校の在り方検討委員会の状況をお願いします。
教育総務課長	学校の在り方ですが、8月25日に第1回目の委員会を開催する予定でございます。委員40名を委嘱いたします。各学校の校長、保護者代表、地区公民館長、保育園・幼稚園の代表、保護者代表、学識経験者として鹿児島大学の教授等でございます。第1回目の委員会では、これまでの経過事項、検討委員会で協議していただきたいことをご説明させていただきます。また、学校の現状ということで、児童数の推移、学校施設の老朽化等について、ご説明をさせていただきます。また、児童保護者へのアンケートの実施について審議していただく内容となっております。2回目以降につきましては、10月、12月、1月を予定しております。アンケート結果に基づく、保護者、子どもたちの声に委員に報告し、その上で委員の方々に検討していただき、在り方の方向性の素案を作成し、審議承認いただく予定でございます。 その後、教育委員会の定例教育委員会でも報告させていただき、市長を交えた総合教育会議で最終的な結論、方向性を決定する予定でございます。その間、住民報告会、議会報告なども、その都度行っていくというようなことで、今年度は予定しているところでございます。
教育長	一番は全保護者へのアンケート。子どもたちには、低学年もいるので難しいアンケートはできないと思いますから、簡単なアンケートを考えております。1クラス何人ぐらいがいいと思いますか等の設問です。

	保護者に対しては、具体的にどうしたいかということも加えながらです。学校施設が築50年を経過していること、児童数の推移等、例えば、同窓会もできない等、いろいろ厳しい状況があるということをお示ししながら、保護者のご意見、子どもたちの思いや考えを最優先しながら、検討していただかなければと考えているところです。 随時、必要なことがあれば、この定例会の中でも報告をさせていただきたいと思ひますし、委員の皆様方からもご意見いただければと、考えております。
5 動議の討論等	
吉富委員	夏休みに入りましたが、保護者の方、ご家庭で子どもを世話しながら、働いておられる状況になりますが、本市においては児童クラブさん、保育園、幼稚園関係になるかと思ひます。低学年の子どもは、そちらに行つてですね。安心して、過ごしているっていうのがわかります。また、各地区においても、催し物夏祭り、お寺さんであつたり神社であつたり、それらに、たくさん子どもたちが参加させてもらつて、子どもたちは、楽しみにうきうきして行きますので非常にありがたいです。 そのことで、地域の教育力というのが、非常に高いと伺うことができます。本当にありがたいことです。また、朝のラジオ体操をされているところ、また、朝読みなどが放送から聞こえると、やっぱり嬉しいです。低学年が、ゆっくり読んだり、高学年が上手に読んだり、学年の差が出るなというのが感想であります。これもまた、地域の方は継続努力していただいておりますので、今後も、無理せず、続けていただければよいのかなと思ひます。
教育長	ありがとうございます。朝読みが聞こえてくると、うれしいなと思ひました。朝、たるスポを歩いていると放送が聞こえてきます。
6 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
吉富委員	文化行事に関して、先ほども申しましたが、いろいろ参加させてもらつておりますが、盛大に催し物が実施されていますし、本当に地元を愛しているのだなと、常に考えているところです。この垂水のよさというのを、まずは市民の方々に知っていただき、子どもたちに伝えていく。これは言わなくても託されていくと思ひますので、それを発展させて繋げていきたいと思ひます。子どもの減少は心配されますが、先日、支援センターが夏祭りを開催し、慈恩保育園と江ノ島幼稚園さんと伺つたところです。子どもたちは、そういう一つ一つが本当に心に入っていきます。ボランティアに高校生や中学生も入りまして、催し物を盛り上げていただきました。ありがとうございました。
教育長	明日はふれあいフェスタが何とか実施できて、また、楽しいものになればいいなと思ひているところです。

葛迫委員	令和7年度の垂水市小・中学校図画審査会が市民館大ホールで開催されましたので報告します。7月15日火曜日午後2時から、市内の各幼稚園・保育園の園児、各小学校の児童、垂水中央中の生徒の図画作品が、市民館の大ホールに集められ審査会が行われました。 今年から審査体制を少し変更しました。昨年まで私が1人で審査していたのですが、垂水市内で美術活動されている小濱亜由美先生にも審査員として参加していただきました。審査員を2名にすることで1人では気づかない部分や、優秀な作品を見落とすことがないようにということを理由に、今年から審査委員2名体制にすることとしました。小濱先生につきましては、絵画では南日本美術展の優秀賞や秀作賞、田川市美術大賞「英展」での優秀賞など、多くの受賞歴があります。また、2010年には「甕海漁譜(げいかいぎょふ)の美術史的研究」とした研究も発表もされております。甕海の甕は鹿児島を意味し鹿児島の海、鹿児島湾のことです。現在は、垂水市海潟で美術の制作や研究をされている方です。 さて、図画作品の審査会ですが、垂水市の小中教育研究会図工・美術部会長の牛根小学校中山克彦校長、そして審査員及び審査をしながら、絵の見方や絵の描かせ方等についての美術研修に、葛迫と小濱先生、それに小中学校の、図画工作美術担当教諭の方々が参加し、審査や図工・美術の勉強会を行ったところです。市内の園や各学校から集められた図画作品は、例年以上に質の高い作品が集められ、「すごいね。」「いいね。」といった、言葉が発せられ、審査も盛り上がった感じがしました。各園や学校から推薦された作品の中から各学年5点を特選に選び、他の推薦作品は入選としましたが、どの作品も、技術が高く、特に中学生の作品にはレベルの高さを感じたところです。小学生もまた中学生同様に技術が向上していると思います。その根底にあるのは、小中学校の指導される先生方の意識や考え方の変化ではと思うところです。絵を描くことや、展覧会で絵を観たりすることが多くなった。絵を描くことで、子どもたちに何か変化が現れた。絵を描くことで知らなかった部分が見えてきたなど、いろいろなことが考えられますが、いい方向に進んでいるのではと思うところです。また、県の作品展に各学年1点ずつ選んでいくのですが、技術の優れている作品の中から、作品を描くポイントに注目し、「主題のはっきりした」、「言いたいことがはっきりした」、そして、「伝わってくる作品」を選んだところです。 今年の和田英作・香苗記念絵画コンクールや、来年の県図画作品展が非常に楽しみになってきました。
教育長	葛迫先生の功績が大きいと思います。各学校でも、研修等でご指導いただいて、ありがとうございます。
福里委員	8月1日の鹿児島市であった研修に参加しました。講演ではヤングケアラーのことや、グループ活動の文化財について各地区・各市の人たちと話をする機会となりました。伝統芸能の保存会も年々少なくなっているということでした。 以前は、子どもたち育成会に入り、夏休みになったら、朝読みをしたり、ラジオ体操してたよねという話もあり、今は親がだめだよねという世代の方がおられ、私はすごく複雑な思いでした。その8月踊りだったりとか、七夕まつりだったり、そういったものも存続が難しくなっているという話もありました。七夕飾りにしても、私たちが小さいときには、すごくそれを楽しみにして、毎年作っていました。幼稚園、保育園では作るんですけど、ご家庭で七夕飾り作ったって聞いても、ほとんどは作ってなかったりとか、そういう昔からの行事や、七夕だったら星を見た

	り、お月見だったらお月様を見たりとか、年々、薄くなってきており、昔からある行事をもう少し大事にしていけないといけないと思いました。 娘や息子も、長い夏休みに入って、それぞれ宿題や作文もパソコンで作って書いて送って、こんなことができるようになったんだなあと、すごくうれしかったです。それほど、パソコンが得意な方ではないのですが、以前は、ローマ字でも手こずった人が、ローマ字で打てるようになっており、すごくありがたいなと感じました。
教育長	今朝、垂水地区公民館の主事さんが、雨でせっかく七夕飾りがぼろぼろだ、明日掃除が大変だとかおっしゃっていました。でもいいですね、道路沿いに海潟中俣のあたりにも立っていたりして、季節を感じるなと思うことです。大事にしていきたいですね。
田之上委員	私も、8月1日の研修会に参加しました。その中で、グループ討議をしたことについて報告します。私は8人のグループで、主に民俗芸能についての話がほとんどでした。まず、お互いに自分の市町村について紹介しました。各地に棒おどりなどの芸能がたくさん残っているようでしたが、多くの地域がやはり少子高齢化のために伝承していくのに苦慮されているということでした。小学校の運動会などで披露することで、やっとなつなげているところが多く、本市の“おろごめ”と同じように男の子の行事だったものから、女の子も参加できるようにして続けているものもあるということでした。地域の中で、何とか続けてはいるんですが、取りまとめをしてくれる人材がおらず、運動会などの地元だけの小さな場所での披露になり大きなイベントへの参加をなかなか受けてくれなくなってきたという、悩みもあると出ました。市町村から補助金があり、出演したときの謝金などが支出されるところも多かったのですが、衣装のクリーニング代や道具の補修に充てているということでした。グループで話をする中で皆さん、ご自分の町の事にすごく詳しくて、私も勉強しないとイケないなっていうのを痛切に感じることでした。 さっきほど、福里委員から昔からの行事の話がありましたけど、私も、昔のことを思い出したときに、「何とかの行事があるときに、こんなお料理をして食べたよ。」など、料理をまず思い出すなあとということをふと考え、鹿屋にいる娘が、行事になると、「お母さん、これこれだから、何が作ってあるよね」とかいう連絡がくるので、母親としては、やっぱりそうやって行事にちなんだ料理だとか伝えていくのも大事なのかなと、学校給食でも大分担ってくださっているところはあるんですが、食べることで大事なことなんだなっていうのを改めて思いました。 また、7月31日に島津家墓所史跡内発掘調査現地説明会に児童クラブで参加をさせていただきました。当日児童クラブに来ていた、3年生以上の24名で参加をさせていただきました。現場を見ながら説明を聞きましたが、子どもたちにとっては、かなり難しいようでしたが、中には興味を持った部分を聞き直したりする子もいて、この歴史の一幕が今後調査によって明らかになっていく中で、あの時見たよなというのが、ちょっとでも心や記憶に残っていく子がいるといいなと思いました。
教育長	料理と行事ですね。すてきですね。「さつますもじ」とか、給食でしか子どもたちも食べていないと思います。そういう給食メニューがあるから、何とか分かるのかなと思います。 私の方から、7月13日の日曜日に市立図書館で開催されました、垂水街角美

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 7 閉 会	術館の企画展、篠原寛人、鶴田公人、長崎雄二 三人展のオープニングセレモニー参加いたしました。葛迫委員から事前にチラシをいただいておりますが、チラシにある絵と本物の絵は、こうも違うんだというのを感じました。緻密さとか幻想的な雰囲気、迫力にも圧倒されました。3人の画家の絵、今も6点ですかね、図書館の方には飾ってあって、ギャラリーのところは、あまり近づかない、さわらないようとなっております。3人の画家の方々を目当てにこられる方々もいらっしゃるでしょうし、夏休みなので学習のために来る子どもたち、あるいは、一般の方々も、きっと大きな刺激を受けるのではないかと思います。 次に、8月1日金曜日は中学校のみ出校日でした。肝付町教育長さんは、福島県のご出身ですが、鹿児島に来られて、出校日を初めて知ったということでした。出校日というのは鹿児島では馴染みがありますが、全国的には、出校日そのものがない市町村があるようです。最近では、県内の小・中学校でも熱中症への懸念や、教員の働き方改革を背景に、出校日を8月21日の1日だけの学校が増えているという状況のようです。21日は、作文などの提出日でもあり、各学校で実施しているようです。これまで勤務してきた学校もそうでしたが、中学校は、8月の1日と21日の2回、出校日を設けている学校もあるようです。1日の出校日は、不登校の課題等もあり、生徒の安否確認や特に、生徒指導の面からも子どもたちの様子を見るという大事な日でもありましたし、もう一方で、広島、長崎の原爆の日や終戦記念日を前に、平和について考える大事な一日でもありました。垂水中央中の時にも、必ず戦争と平和に関して生徒たちに話をしました。長崎市内のほとんどの小中学校は、8月9日原爆の日は登校日となっており、毎年、平和への祈りをささげているということでした。 また、閉校になりましたが、薩摩川内市に滄浪小学校という小さな学校がありましたが、昭和20年7月30日の空襲で校舎を消失し、勤労奉仕として集まっていた児童7人が犠牲となっているということで、毎年7月30日を出校日として、平和について考える会を開催していたようです。 戦後80年ということで、市立図書館でも展示が行われておりますが、改めて平和への思いを新たにしなければと思うところです。 出校日のあり方については、それぞれの学校の実情により、校長先生が判断されています。1日の朝、交差点に立っていると、中学生だけが登校していますが、いつもの子どもたちが、強い日差しの中、登校していました。「おはようございます。暑さに気をつけてね」というと、「はい」と素直な返事が返ってきました。残りの夏休みも元気に過ごしてくれたらなと思うところです。 7月12日から8月8日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、8月9日から9月2日までの行事予定についてお知らせした。
--	---